

★『岸辺なき流れ』を読みたまえ。こんな書物は今までどこの国にも存在しなかった。
(ロルフ・ディーター・ブリンクマン)

★トーマス・マンやムージルとともに、ヤーンは二十世紀前半のもっとも偉大な作家である。
(ウーヴェ・ヴォルフ)

★ヤーンは他の人たちには不快感を催させるかもしれないが、私にとってはそうではない。
芸術的に大胆であることはいつだって最大限の快樂だからである。(トーマス・マン)

岸辺なき流れ

《上・下》

ハンス・ヘニー・ヤーン

沼崎雅行・松本嘉久・安家達也・黒田晴之◎訳

A5判 / 上製 / (上)740ページ / (下)720ページ 定価:各5800円+税

『岸辺なき流れ』あらすじ

謎の目的をもって、一隻の船が出帆する。木造帆船ライス号は迷路のような構造をもち、積み荷も行き先も闇につつまれている。船長の娘エレナは突然行方不明となり、彼女の婚約者のホルンが懸命に船内を搜索する。エレナの失踪に不安に陥った乗組員たちは、船上で謀反を起こし、ライス号は沈没する…… 大長編の序曲ともいべき第一部『木造船』は、大洋上での数々の奇怪な出来事が描かれる。

第二部『四十九歳になったグスタフ・アニアス・ホルンの手記』は、ライス号沈没の二十九年後、才能のある有名作曲家となったホルンの回想記。見知らぬ男とホルンの出会いから始まり、暗闇に包まれていた第一部の神秘に光が当てられる。海から助け上げられた乗組員たちは、救助に当たった貨物船に運ばれて、南米のポルト・アルグレに到着し、ここで全員が任務から解かれる。ホルンとライス号の水夫だったトゥータインの二人は、同性愛的な関係を結び、南米やアフリカ、カナリア諸島を転々として、さまざまな奇妙な人物との出会いと不思議な事件の数々を経験しながらヨーロッパに戻る。警察の手を逃れてノルウェーとスウェーデンに住んだのちに、二人はバルト海に浮かぶデンマーク領の小さな島ファスタホルムに落ち着く。ホルンとトゥータインは互いの血液を交換するが、トゥータインは数年後に病死する。ホルンは彼の死体を墓に埋葬せず、特別な箱に入れて自宅に保存する。そんなホルンのもとに、アヤックスという不可解な青年が現れ、みずからホルンに召使を志願するが……

船、棺、地下室、箱、馬、血液交換、分身、死体保存、同性愛、時間、音楽——
ひとりの作曲家を主人公に、人間と宇宙の謎と深淵、生存と死の深奥の根拠
に迫る、異端の一大河小説。『ユリシーズ』や『失われた時を求めて』と並
び称される20世紀文学の大金字塔が半世紀の歳月を掛けて遂に翻訳。カ
フカ、ムージル、プロッホと並ぶドイツが生んだ巨匠ヤーンの最大の問題作!!